

農学学位プログラム (博士後期課程)
Doctoral Program in Agricultural Sciences

授与する学位の名称	博士(農学) [Doctor of Philosophy in Agricultural Science]	
人材養成目的	総合科学としての農学のもつ幅広い知識、課題探求能力、問題解決能力を修得し、地球規模での農と食と環境にかかわる課題解決に根拠を与えるような研究を自立して遂行できる高度専門職業人・研究者を育成する。	
養成する人材像	産業界はもとより、行政機関などにおいても、地球規模課題では国際的に整合性のある解決を、国内では地域社会の持続性を保証する解決を提言・実践できる人材が育成される。さらには大学における研究・教育の資源となる。	
修了後の進路	本プログラムを修了した博士人材は、政府研究機関、政府行政機関、教育機関をはじめ、民間企業など産業界に進出し、国内外で基礎研究、技術開発、商品開発はもとより政策提言や研究行政に携わる。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	各講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 博士論文作成, 学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	各講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, アドバイザリー・コミッティにおける研究活動の定期的な進行管理, 個別指導など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質をわかりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか	各講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 学会発表, ポスター発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	各講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, TA・TF(大学院セミナー等)経験, プロジェクトの参加経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	各講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 国外での活動経験, 外国人(留学生を含む)との共同研究, TOEIC 得点, 国際会議発表, 英語論文など
6. 研究実行力: 農学分野における最新の専門知識を備え、独創的な研究課題を設定・遂行できる能力	① 専攻分野における正確な学識に基づいた新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 農学の持続的な発展に資する知を創成することが期待できるか	各講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 学位論文執筆
7. 専門知識と運用力: 農学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	① 農学分野における専門知識を幅広く備えているか ② 専攻分野における先端的かつ高度な専門知識を修得し、それを研究や問題解決に運用できるか	各講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 国内外での学会発表
8. 研究成果の社会実装力: 農学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専門分野に関する深い倫理的知識	① 研究者倫理および技術者倫理と研究に必要な手続きについて十分に理解し遵守しているか ② 専門分野に関する倫理的問題について、深い関心と知識をもつか	各講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 研究論文投稿, INFOSS 受講, APRIN
学位論文に係る評価の基準		
以下の評価項目すべてを満たす学位申請論文を、4名以上からなる学位論文審査委員会における最終試験を経た上で、博士論文として合格とする。		
1. 論文の問題設定が明確に示され、農学学位プログラム関連分野において学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。		
2. 研究主題の探求に際して、利用した文献や資料が適切に提示及び評価され、論旨の展開のうえで適切に言及されているか。		
3. 研究主題探求のために採用された、理論、実験、調査、シミュレーション、試作・試行などの研究方法は適切か。		

<p>4. 問題設定から結論に至る論旨が実証的かつ論理的に展開されているか、また導き出された結論が農学学位プログラム関連分野において新規性または有用性があるか。</p> <p>5. 学位論文としての体裁が整っているか。</p>	
<p>カリキュラム・ポリシー</p> <p>総合科学としての農学が関わる各専門分野において、自らの力で研究・実践を計画して推進する能力、総括する能力、及び国際的に高い評価が得られる企画書・起案書・学術論文を公表する能力を体系的に修得するための教育課程を編成する。</p> <p><NARO 関係先端農業技術科学サブプログラム></p> <p>国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構に在籍する第一線の研究者が、連係大学院の教員として学生指導を行い、我が国農業の産業基盤を支える総合的な技術体系の確立、持続的な食料供給を実現する地域社会の活性化等、先端農業技術を修得する。</p>	
<p>教育課程の編成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食料と環境・資源・エネルギーなど生物資源生産にかかわる専門力を習得し、地球規模課題を解決するための完結力、グローバルな視点で行われる研究と個々に異なる事情を持つ現場をつなぐローカライゼーション力を涵養するための教育課程を編成する。 ・必修科目の講究以外に大学院共通科目 2 単位以上習得することなどによりコミュニケーション能力、倫理的問題への対応力、マネジメント能力、リーダーシップとしての素養を修得させる。 ・海外フィールド演習による海外での野外観察や調査、海外研究者との交流を通じて、国際コミュニケーション能力を高め、農学を通じた世界貢献に対する意欲を向上させる。
<p>学修の方法・プロセス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講究を必修科目とし、それを通して、少人数で双方向性を持った教員・院生対話型の講義や研究発表形式のゼミを行い、専門知識に対する深い理解とプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力、研究活動における高い倫理観、社会ニーズが高い課題を解決する能力を身に着ける。 ・国際学会での講演、国際誌への論文投稿を奨励し、英語力を持った国際的コミュニケーション能力を身に着ける指導を行う。
<p>学修成果の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後に学生ごとに 3 名以上の専攻教員からなるアドバイザー・コミッティを設置し、1 年に 1 回以上のヒアリングを行い、研究推進への助言を行う。アドバイザー・コミッティは必要に応じて他学位プログラムの教員も参画する。 ・指導教員は、査読付き学術論文執筆や学会発表・シンポジウム参加等の研究能力習得上の指導を行うだけでなく、入学時の諸手続きや博士論文申請の諸手続き、奨学金の案内等を常に行い、学生の学位取得をサポートする。 ・学位論文審査の前提として学会査読付き論文を投稿させ受理まで指導する。これにより学位にふさわしい成果を上げているかを評価する。また学位審査に先立って研究成果の発表会を行い、コミュニケーション能力や課題解決能力を評価する。 ・学位審査では、学位論文審査委員会を通じて、研究成果を統括する能力、国際的に高い評価を得られる企画書・学術論文を公表する能力の有無を評価する。口頭試問により研究活動における倫理観、外国語能力、農学を通して世界に貢献する明確な意思などを評価する。
<p>アドミッション・ポリシー</p>	
<p>求める人材</p>	<p>生物資源科学の諸領域をリードする独創性と専門性を兼ね備えた基礎的及び応用的研究素養を持ち、食料、人口、環境をめぐる今日的・国際的課題に対処できるグローバルな視野と未来を俯瞰した柔軟な思考力を併せ持ち、人類社会に貢献する意欲のある学生を求める。</p>
<p>入学者選抜方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試、社会人特別選抜、留学生特別選抜(国際農業科学プログラム、生物資源工学・経済学コース)などの多様な選抜方式を採用する。 ・国際的活動に必要な語学力の評価、口述試験による自己表現能力、専門分野に関する研究能力、研究計画の適切性などの評価のもとに、本学位プログラムに適した人材を選抜する。 ・英語による教育プログラムや社会人を対象に 1 年間で修了可能な早期修了プログラムを設ける(ただし、当面はNARO 関係先端農業技術科学サブプログラムにおいて早期修了プログラムは実施しない)。